

葛城南部の遺跡

約8km



みどころ

葛城山の東麓は、古代葛城の中核地域のひとつであり、葛城氏や鴨氏の本拠地とされています。5・6世紀には渡来系工人が多数住み、最先端の鉄器生産等がおこなわれた地域でもありました。そのことが葛城氏の政治・経済・軍事力の基盤となり、大王家の外戚としての地位を確固たるものとしていたと考えられています。



宮山古墳長持形石棺

1 鴨都波遺跡

鴨都波遺跡（鴨都波神社周辺）は、弥生時代から古墳時代へ続く集落跡です。その範囲は、北は済生会病院周辺、南は御所青翔高校周辺に及び、葛城川流域の中核となった集落と推定されています。多数の住居跡の例のなかには、朝鮮半島とのつながりを示す松菊里式とよばれる弥生時代前期のものもあります。また済生会病院周辺には、弥生時代から古墳時代にかけての墳墓が築かれており、そのなかの鴨都波1号墳（古墳時代前期・方墳・20x16m）は、木棺・粘土槨を埋葬施設とするもので、三角縁神獣鏡・鞍等多数の副葬品が出土したことで知られています。



鴨都波遺跡石支（橿原考古学研究所蔵）

2 宮山古墳（室大墓）

宮山古墳（前方後円墳・墳長246m・国の史跡）は、5世紀初頭頃に葛城南部に築かれた最大の古墳です。雄大な墳丘は3段に築成されています。後円部頂には、2基の竪穴式石室が南北に並んで造られています。そのうちの南側のものが調査され、出土した盾・鞍・家形埴輪等の遺物を橿原考古学研究所附属博物館で展示しています。南側石室には巨大な長持形石棺が納められており、開口している西側からその姿をみることができます。この石棺は、津堂城山古墳（大阪・藤井寺市、後円部の一部は藤井寺陵墓参考地）のものと、よく似ていることが指摘されています。また前方部の北裾には、北へ突出する張り出しがあります。1971年の調査では、長さ8.6mの木棺が出土し、短甲片・鉄鎌・鉄刀等が出土しました。古墳の周囲には外堤が残っています。古墳の北を走る国道309号線は、まさに外堤の上に位置しています。葛城地域の古墳のなかでは、年代・規模の上で始祖墓的な古墳に位置づけられることから、葛城襲津彦の墓とする説もあります。



宮山古墳長持形石棺

3 ネコ塚古墳

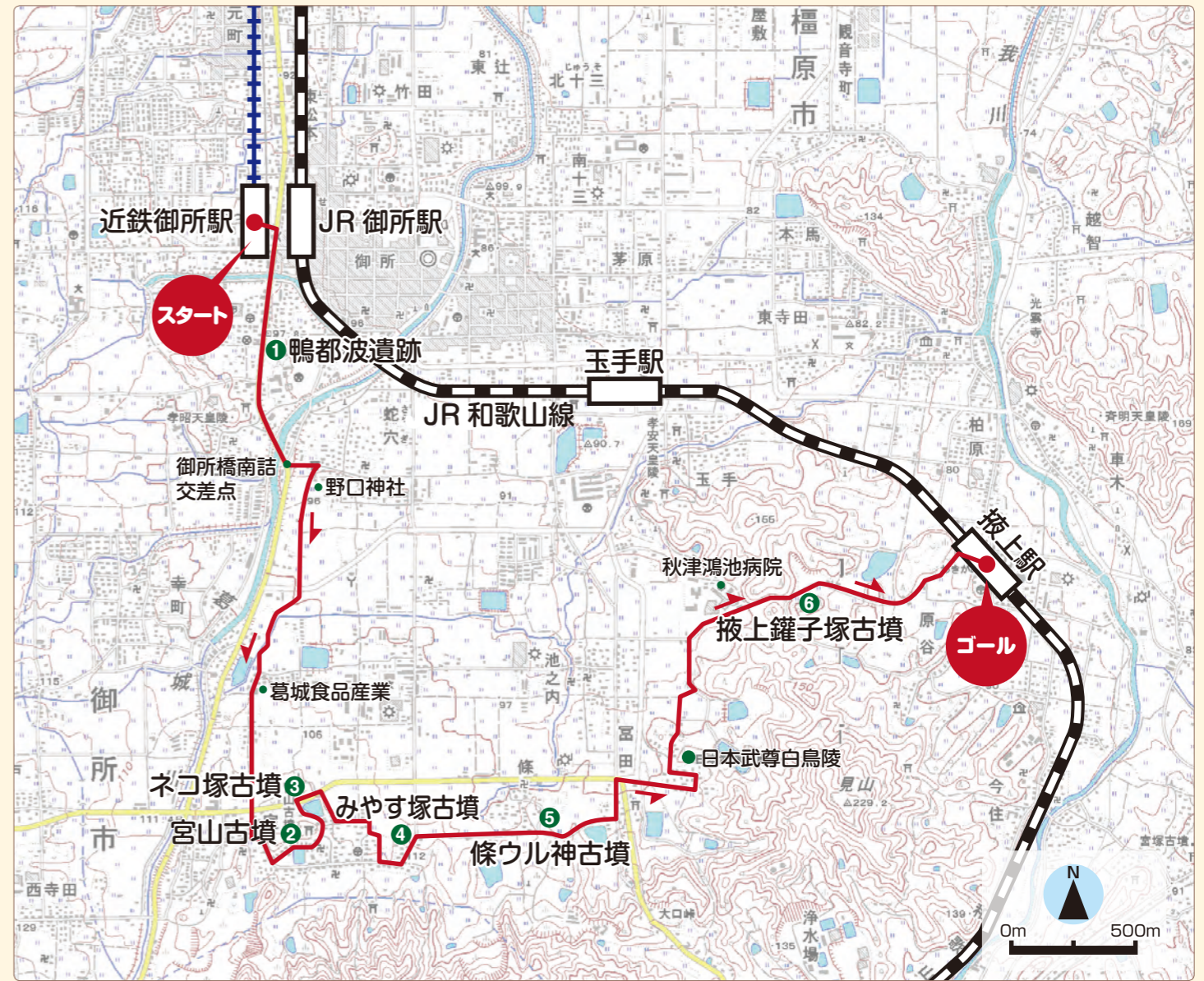
国道309号線をはさんで宮山古墳の北側にある小山がネコ塚古墳です。案内板などはありません。ネコ塚古墳（方墳・一辺約70m）は宮山古墳の北東にあるために陪塚（中心となる古墳に対して、計画的に配置された墳墓）と推定されています。埋葬施設は調査されていないので詳細は不明ですが、割石積みの竪穴式石室があり、鉄片が出土したと伝えられています。墳丘裾については、国道309号線の歩道整備に際して調査がおこなわれました。円筒埴輪片が出土したことからみれば、埴輪が立てめぐらされていたことが推定されます。※畑などには立ち入らないようにしましょう。

4 みやす塚古墳

みやす塚古墳（円墳・径約50m）は、宮山古墳の東約400mに位置する古墳です。1948年に墳頂部の調査がおこなわれ、方形に立てめぐらされていた円筒埴輪の一部が確認されています。埋葬施設はその中心の地下に想定されますが、すでに盗掘されて、大きな窪地となっていました。出土埴輪には、家・蓋形埴輪等の形象埴輪もあります。※案内板・説明板はありません。※私有地のため立ち入らないようにしましょう。

5 條ウル神古墳

條ウル神古墳（前方後円墳・墳長100m前後?）は、1916年に一度報告されていましたが、その後の地形改変で所在さえ不正確になっていた古墳です。2002年に調査がおこなわれ、再び大形の横穴式石室の存在が確認されました。墳丘は開墾されているために正確な規模はわかりません。東向きに開口する横穴式石室は長大であり、玄室長7.1m・高さ3.8～4mを測るものです。これは石舞台古墳の巨大石室（玄室長7.7m）に匹敵する規模といえます。石室中央には割抜式家形石棺が置かれています。残念ながら、石室は再び埋め戻されており、現在はみることができません。6世紀後半に築造された古墳と推定されています。※私有地のため立ち入らないようにしましょう。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（地図画像）を複製したものである。（承認番号 平21業第、第425号）

6 掖上籬子塚古墳

秋津鴻池病院をぬけ、峠のピークをこえてまっすぐ進むと右手に水田をはさんで植林されている小山があります。これが掖上籬子塚古墳です。掖上籬子塚古墳（前方後円墳・墳長150m）は、周濠が水田となって周囲をめぐっている古墳です。後円部（径102m）の比率が大きい墳丘は、3段に築成されています。後円部頂にある埋葬施設は盗掘されており、竪穴式石室に長持形石棺が納められていたとも、石棺が直接納められていたともいわれていますが、板石材の存在から竪穴式石室があった可能性が高いと推定されます。出土遺物の一部が伝えられており、金銅製の帯金具等の金を使用した優美な仕上がりや、橿原考古学研究所附属博物館の展示で観察することができます。こうした出土遺物からみて、5世紀前半から中頃にかけて築造された古墳と推定されています。

コース

スタート JR・近鉄御所駅

- ▼ 8分
- 1 鴨都波遺跡
- ▼ 40分
- 2 室宮山古墳
- ▼ 5分

- ▼ 11分
- 3 ネコ塚古墳
- ▼ 8分
- 4 みやす塚古墳

- ▼ 30分
- 5 條ウル神古墳
- ▼ 13分
- 6 掖上籬子塚古墳

注 トイレの少ないコースです。駅・コンビニをご利用ください。石室内の観察に、懐中電灯などがあれば便利です。寺社等の見学に際し拝観料などの料金が必要な場合があります。紹介したコースには私有地なども含まれます。マナーを守って見学しましょう。

平城遷都 1300年祭



©Heijyo-kyo 1300th Anniv.